



しんけ としろう  
**新家 俊郎** 主任教授

1992年神戸大学医学部卒業。米セント・ジョセフ・トランスレーショナルリサーチインスティテュート研究員、神戸大学医学部附属病院冠動脈疾患治療部准教授などを経て、2018年から現職。

2018年から昭和大学の循環器内科学部門を率いる新家俊郎主任教授。着任直後から組織の一体感を意識した教室運営に取り組み、地域密着型の診療と最先端の治療を同時に展開している。理想に掲げる教室の姿は、誰もが信頼するブランド力の確立だと語る。

また、睡眠時無呼吸症候群(SAS)の治療や研究にも取り組んでいます。これまで、SASを含む睡眠障害は精神科、呼吸器内科、耳鼻咽喉科などが担ってきましたが、近年では心不全などの疾患と関連していることが分かってきました。当教室には安達太郎准教授を中心とする循環器睡眠時無呼吸グループがあり、附属東病院で外来や入院病棟を展開しています。

本院には心臓血管外科と密に連携して診療に当たる「循環器センター」があり、救急診療部門において循環器疾患の救急医療を担当。ここでは、救急隊や消防庁から要請を受けて患者さんを受け入れる「東京都CCUネットワーク」に加え、独自に構築した開業医と

## 講座クローズアップ

# 昭和大学医学部内科学講座 循環器内科学部門

## 教室の一体感を育み、ブランド力向上へ

のネットワーク「ハートラインシステム」を運用しています。当直医も常に2人以上を配置し、重症度にかかわらず、24時間365日体制で対応しています。

地域連携の観点では、近隣の開業医や中規模病院の先生方を対象にした講演会を年に1度開催しているほか、勉強会も定期的に実施しています。現在の標準治療はどのようなものかを共有したり、ご紹介いただいた患者さんの状況などをお話ししたりすることで、日頃から良い関係性を築けるよう取り組んでいます。

### 主任教授就任から約5年を振り返って。

関西から東京の大学に赴任して、当初は戸惑いも大きかったですし、もちろん、苦労もありました。それでも教室運営のイメージや目標を持ちながら、また多くの人に支援していただきながら、着実に歩んできたと思っています。

まず、短期的な目標は「土を耕す」。具体的には人材育成とチームとしての一体感の醸成です。教室員には長所を伸ばすだけでなく、短所をつくらないよう指導し、標準治療の徹底を心がけてきました。それでも当然、人には得手不得手があります。

ですので、全員で助け合える環境づくりも重視。附属病院や関連病院のスタッフに関しても、きめ細かなコミュニケーションを意識し、互いに協力しながら、教室全体で同じ方向に進める体制を整備してきました。

今後を含めた中長期的な目標は、「苗木を育み森をつくる」です。伸び盛りで大志を抱く教室員には国内外への留学を積極的に促し、研さんを積んでもらう。そして、将来的には関連病院などでの自らの経験を還元し、後進の教育にも携わること、教室という「森」を大きくしたいと思っています。

### 理想とする教室の姿は。

もう少しブランド力を身につけて、「循環器と言えば昭和大学」と多くの方に認識されることが理想です。そのためには、一人の優秀な医師が必要なのではなく、全員が高いレベルの診療を実践し、誰が患者さんにファーストタッチしても同じ結果になる体制が重要だと考えています。

また、臨床での疑問を研究につなげて、成果を出すことも不可欠でしょう。今後は多くの施設のデータに基づき、次世代の医療を提案できるような臨床研究を進めたいですね。